

2021年11月26日

実行委員
エキストラ
審査員
参加者
様

救助救命本部長

第6回JLAシミュレーション審査会【和田長浜会場】

実施細部 通知

1. 実行委員会・エキストラ・審査員構成を次ページ以降に表記
2. タイムテーブルを次ページ以降に表記
3. 審査票
別紙1から別紙5の通りとします。
4. 配点割合
別紙6の通りとします。
5. 感染対策など
別紙7-1、7-2の通りとします。
当該参加チームは、審査会当日14日前（2021年12月3日）からの体調管理チェックシートを活用し、審査会当日に参加者分を受付時に提出願います。
審査員及び係員も、審査会当日14日前（2021年12月3日）からの体調管理チェックシートを活用し、審査会当日に受付時提出願います。
6. その他
変更があった場合は、審査会当日の開会式で伝達します。

問合せ先

公益財団法人日本ライフセービング協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1F 担当 中山

T E L : 03-3459-1445 Mail : nakayama@jla.gr.jp

(問合せ時間 12:00-18:00)

実行委員会配置

実行委員長 統括 進行

菊地 太 救助救命本部副本部長

次番者テント担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

◎小林 俊樹 パトロールレスキュー副委員長
○伊東 翔太 九十九里ライフセービングクラブ
志賀 宏行 西浜サーフライフセービングクラブ

実施者チームテント担当 資器材定位置確認担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

◎内田 直人 防災対策委員長
○橋本 敦 西浜サーフライフセービングクラブ
山本 万璃愛 白浜ライフセービングクラブ

審査票集計担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

1. ◎石川 仁憲 救助救命本部本部長
2. ○佐藤洋二郎 JLA 事務局

テント等会場設営撤収担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

1. ◎小林 俊樹 パトロールレスキュー副委員長
2. ○内田 直人 防災対策委員長
3. 中山 昭 J L A 事務局
4. 佐藤 洋二郎 J L A 事務局
5. 中川 健 辻堂ライフセービングクラブ
6. 松本 貴行 教育本部 本部長
7. 関口 義和 アカデミー本部 サーフライフセービング委員長
8. 上野 凌 スポーツ本部 副本部長
9. 島田 そら 逗子ライフセービングクラブ
10. 縄手 大志 下田ライフセービングクラブ
11. 岩永 祥映 湯河原ライフセービングクラブ
12. 篠田 敦子 館山サーフライフセービングクラブ
13. 山崎 敦 西浜サーフライフセービングクラブ
14. 伊東 翔太 九十九里ライフセービングクラブ
15. 山本 万璃愛 白浜ライフセービングクラブ
16. 夏 翔太 九十九里ライフセービングクラブ
17. 世羅 結菜 九十九里ライフセービングクラブ
18. 志賀 宏行 西浜サーフライフセービングクラブ
19. 橋本 敦 西浜サーフライフセービングクラブ
20. 板垣 俊輔 九十九里ライフセービングクラブ
21. 木村 忠博 三浦海岸サーフライフセービングクラブ

記録担当

1. 記録用動画・静止画撮影 合田 光伸

※ 上記に係員の係員を配置しましたが、**審査員、エキストラ、JLA事務局の皆さんのご支援が必要です**ので、お手すきの際は、各セッションご協力のほど宜しくお願い致します。

エキストラ

1. 協力公的救助機関、医療機関車両、救急隊員資器材等
横須賀市消防局
2. 救急隊員エキストラ
横須賀市消防局 機動救急隊 隊長 熊澤 拓也 (クマザワ タクヤ) 様
横須賀市消防局 機動救急隊 鈴木 亮太 (スズキ リョウタ) 様
横須賀市消防局 機動救急隊 梨本 仁 (ナシモト ジン) 様
補佐 東京消防庁ライフセービングクラブ
3. エキストラ (◎はリーダー、○はサブリーダー)
◎中川 健 辻堂ライフセービングクラブ
○板垣 俊輔 九十九里ライフセービングクラブ
篠田 敦子 館山サーフライフセービングクラブ
島田 そら 逗子ライフセービングクラブ
縄手 大志 下田ライフセービングクラブ
岩永 祥映 湯河原ライフセービングクラブ
山崎 敦 西浜サーフライフセービングクラブ
夏 翔太 九十九里ライフセービングクラブ
世羅 結菜 九十九里ライフセービングクラブ
木村 忠博 三浦海岸サーフライフセービングクラブ
4. AED リモコン操作 トランシーバーによる仮想消防 ダミー容態変化呼称
菊地 太 救助救命本部副本部長

審査員構成

1. 2021年12月18日(土) 神奈川県 横須賀市・三浦市 和田長浜海岸
長 横須賀海上保安部 警備救難課長 若生 仁 (わこう ひとし) 様
員 横浜海の公園ライフセービングクラブ 落合 慶二
長 波崎サーフライフセービングクラブ 相馬 翔太
員 館山サーフライフセービングクラブ 堀部 雄大
員 西浜サーフライフセービングクラブ 原 伸輔
長 大竹サーフライフセービングクラブ 鶴園 宏海
員 湯河原ライフセービングクラブ 西山 俊
員 銚子ライフセービングクラブ 田村 憲章
員 JLAスーパーバイザー 飯沼 誠司
長 JLAスーパーバイザー 中見 隆男
員 教育本部 本部長 松本 貴行
員 アカデミー本部 サーフライフセービング委員長 関口 義和
長 スポーツ本部 副本部長 上野 凌
M JLAメディカルダイレクター 朽方 規喜
M JLAメディカルダイレクター 中川 儀英
審 救助救命本部長 石川 仁憲
計 救助救命本部副本部長 菊地 太
2. 審査票担当 (各審査員の氏名前に記載されている記号は以下の通りとします。)
長 監視長審査担当
員 監視員審査担当
M 救護手技審査担当
審 審査長全体審査担当
計 時間審査担当
※ 審査票は、別紙の通りとします。

2021年12月18日(土) 神奈川県 横須賀市・三浦市 和田長浜海岸 タイムテーブル

時間	項目
08:30	係員集合 会場設営開始
09:00	会場設営完了 エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09:30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09:30	実施チーム受付開始
09:50	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合
09:55	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 救助救命本部本部長 石川仁憲 ご挨拶 三管区海上保安本部 警備救難部 救難課長 佐々木 崇夫 (ささき たかお) 様 紹介 審査員 横須賀海上保安部 警備救難課長 若生 仁 (わこう ひとし) 様</p> <p>■救急隊エキストラ 横須賀市消防局 機動救急隊 隊長 熊澤 拓也 (クマザワ タクヤ) 様 機動救急隊 鈴木 亮太 (スズキ リョウタ) 様 機動救急隊 梨本 仁 (ナシモト ジン) 様</p> <p>補佐 東京消防庁ライフセービングクラブ 紹介 審査員 横浜海の公園ライフセービングクラブ 落合 慶二 紹介 審査員 波崎サーフライフセービングクラブ 相馬 翔太 紹介 審査員 館山サーフライフセービングクラブ 堀部 雄大 紹介 審査員 西浜サーフライフセービングクラブ 原 伸輔 紹介 審査員 大竹サーフライフセービングクラブ 鶴園 宏海 紹介 審査員 湯河原ライフセービングクラブ 西山 俊 紹介 審査員 銚子ライフセービングクラブ 田村 憲章 紹介 審査員 教育本部本部長 松本 貴行 紹介 審査員 アカデミー本部 サーフライフセービング委員長 関口 義和 紹介 審査員 スポーツ本部副本部長 上野 凌 紹介 審査員 J L A M D南多摩病院 血管外科部長 医師 朽方 規喜 先生 紹介 審査員 J L A M D東海大学医学部救命救急医学 領域主任教授 医師 中川 儀英 先生 紹介 審査員 J L Aスーパーバイザー 飯沼 誠司 紹介 審査員 J L Aスーパーバイザー 中見 隆男</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>
10:30	第1回目実施 銚子ライフセービングクラブ
10:45	第2回目実施 葉山ライフセービングクラブ
11:00	第3回目実施 湯河原ライフセービングクラブ
11:15	第4回目実施 成城学園ライフセービングクラブ
11:30	第5回目実施 大竹サーフライフセービングクラブ
11:45	第6回目実施 鹿嶋ライフガードチーム平井海水浴場
12:00	第7回目実施 鹿嶋ライフガードチーム下津海水浴場
	昼休憩 昼食
13:00	第8回目実施 西浜サーフライフセービングクラブ
13:15	第9回目実施 九十九里鋸南ライフセービングチーム
13:30	第10回目実施 館山サーフライフセービングクラブ
13:45	第11回目実施 辻堂ライフセービングクラブ
14:00	第12回目実施 常陸サーフライフセービングクラブ
14:15	第13回目実施 波崎サーフライフセービングクラブ
14:30	第14回目実施 逗子サーフライフセービングクラブ
14:45	第15回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブ
15:10	<p>講演 「アミノ酸によるコンディショニングについて」 味の素株式会社 アミノサイエンス事業本部 スポーツニュートリション部 マーケティンググループ 中村 寿徳 (なかむら としのり) 様</p> <p>■集合写真 各公的救助機関、J L Aメディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評 表彰 事務連絡</p>
16:15	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散</p>
16:30	■事務連絡 全係員解散

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

服装など

1. 実施チーム

夏期監視業務中の服装とします。必要に応じて監視業務中の防寒対策可とします。ただし J L A から配付や販売の **パトロールユニフォーム** については **原則 2020 年製以降** を使用し、記録写真が今後の広報活動に使用できるよう配慮願います。

監視長実施者識別のため、運営側が用意したビブスを一番外側に着用予定です。

2. 実施隊（救急隊員）

災害対応時の服装とします。

3. エキストラ

役どころに応じて別途指示します。各自防寒対策願います。

4. 審査員

随意としますが、審査員の腕章を着用とします。各自防寒対策願います。

5. 記録（静止画担当・動画担当）

随意とします。各自防寒対策願います。

注意事項

1. **実施チームは、実施時間 20 分前には、係員から指定された次番者テントに集合し、審査開始まで離れないでください。**
2. 想定終了後は、実施チームは速やかに使用資器材を元の位置に戻し、次番チームの進行の妨げにならないよう配慮してください。
3. 前番の実施チームの審査はモラルの範囲で見ないものとします。
4. 審査実施終了後チーム及び見学者は審査実施を見学し、見取りトレーニングとしての参加を推奨しますが、審査未実施チームへの想定内容など情報漏えいは禁止とします。
5. 審査中に危険が伴うと審査員によって判断された場合は、想定終了前であっても中止と指示する可能性があります。審査中であっても審査員の指示があった場合は、速やかに従ってください。
6. 審査結果に伴い、優秀な実施チームを閉会式で発表します。また、審査員から上がってきた検討・推奨事項は、2022 年 2 月 4 日迄に公式 HP など公表します。来年のパトロール活動や審査会及び普段の連携トレーニングに活かしてください。
7. 審査結果について、下記期間に問合せがあった実施チーム自身の結果のみ、個別対応で回答します。自身実施チーム結果以外の情報は一切公表しません。
審査結果問合せ先 パトロールレスキュー委員長 菊地太 090-7000-5762
問合せ受付期間 2022 年 1 月 24 日(月)~2022 年 1 月 25 日(火)
両日 19 時から 21 時までの間
8. **想定及び J L A 側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。**



本部テント受付にて**参加者・係員・見学者含むすべての方の検温を実施**します。検温実施後は、実施済みのリボンを手渡しますのでご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

監 視 長 審 査 票

番号	項目	小項目	点数				小計	
1	継続監視対応	状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4		
2		救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4		
3		全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4		
4	有事対応	公的救助機関対応	傷病者の観察情報を把握していたか	1	2	3	4	
5			関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
6			観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
7			公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
8			搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
9			公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
10			監視長から監視員への指示は良好であったか	1	2	3	4	
11			指示に対して監視員からの応答を確認していたか	1	2	3	4	
12			継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
13	状況に合わせた対応	関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4		
14		危険行為がなかったか	1	2	3	4		
15		資器材を丁寧に取り扱い合わせていたか	1	2	3	4		
16	監視長としての指揮項目は十分であったか		1	2	3	4		
17	必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか		1	2	3	4		
18	士気は旺盛だったか		1	2	3	4		
19	感染防止対策は十分であったか	最大13点					点	
20	総括点	最大15点					点	
		合計得点 100点満点中					点	

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

監 視 員 審 査 票

番号	項目	小項目	点数	小計
1	継続監視対応	他の監視員との連携は的確であったか	1 2 3 4 5	
2		救護活動に対する行動は的確であったか	1 2 3 4 5	
3	有事対応 公的救助機関対応	監視長の指示のもと、組織的な活動ができていたか	1 2 3 4 5	
4		傷病者の観察方法は的確であったか	1 2 3 4 5	
5		公的救助機関への協力体制は十分であったか 搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1 2 3 4 5	
6		公的救助機関への申し送りは十分であったか	1 2 3 4 5	
7		他の監視員との連携は的確であったか 知り得た情報を監視員間で共有できていたか	1 2 3 4 5	
8	状況に合わせた対応	周囲の自然環境などを考慮して活動できたか	1 2 3 4 5	
9		関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1 2 3 4 5	
10		資器材の取り扱いは習熟していたか	1 2 3 4 5	
11		観衆に配慮した行動ができていたか	1 2 3 4 5	
12	士気は旺盛だったか		1 2 3 4 5	
13	感染防止対策は十分であったか	最大20点		点
14	総括点	最大20点		点
		合計得点 100点満点中		点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

救護手技審査票

番号	項目	小項目	点数					小計
1	観察要領	周囲の状況を的確に把握し手技に移ったか	1	2	3	4	5	
2		観察が形式的でなかったか 全身の観察要領は的確であったか	1	2	3	4	5	
3		傷病者への動揺は最小限にするなど、体位管理は適切であったか	1	2	3	4	5	
4		観察を開始する場所は適切であったか	1	2	3	4	5	
5		呼吸の確認要領は適切であったか	1	2	3	4	5	
6		循環の確認要領は適切であったか	1	2	3	4	5	
7	有事対応	気道確保の手技は適切であったか	1	2	3	4	5	
8		胃内容の逆流の対処は適切であったか	1	2	3	4	5	
9		資器材の取り扱いは十分であったか	1	2	3	4	5	
10		監視員間の連携は十分であったか	1	2	3	4	5	
11		傷病者観察開始から救急車への収容中、各手技に継続した集中力が保っていたか	1	2	3	4	5	
12	安全管理連携	感染防止などに配慮した行動であったか	最大10点					点
13		監視員自身の安全管理は徹底されていたか	1	2	3	4	5	
14		資器材を丁寧に取扱っていたか	1	2	3	4	5	
15		公的救助機関への申し送りは的確であったか	1	2	3	4	5	
16	総括点	最大20点					点	
		合計得点	100点満点中					点

検討事項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推奨事項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

審査長全体審査票

番号	項目	小項目	点数				小計	
1	継続監視対応	状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4		
2		救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4		
3		全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4		
4	有事対応	公的救助機関対応	監視長の指示のもと組織的な活動ができていたか	1	2	3	4	
5			傷病者の観察方法は的確であったか	1	2	3	4	
6			関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
7			観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
8			公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
9			搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
10			公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
11			監視長は、継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
12	状況に合わせた対応	関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4		
13		危険行為がなかったか	1	2	3	4		
14		資器材を丁寧に取り扱いさせていたか	1	2	3	4		
15		資器材の取扱いは習熟していたか	1	2	3	4		
16	監視長としての指揮項目は十分であったか		1	2	3	4		
17	必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか		1	2	3	4		
18	士気は旺盛だったか		1	2	3	4		
19	感染防止対策は十分であったか	最大13点					点	
20	総括点	最大15点					点	
		合計得点 100点満点中					点	

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

時間審査票 想定

番号	項目	時間	分類	点数
1	傷病者への観察開始時間は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
2	必要であれば傷病者への気道確保は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
3	必要であれば傷病者へのAED解析開始は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
4	119番通報は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
5	傷病者の救急車内収容は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	

優=10点 良=8点 可=6点 他=5点以下 実施チームの平均タイムから分類・点数は算出します。

実施チーム名 _____

審査票総合評価配点割合

監視長審査票	30%
監視員審査票	50%
審査長全体審査票	10%
時間管理による審査	10%
救護手技審査票	別途評価

1. 各地域によって、審査票の担当者数に相違があるので、最終集計時の総合評価配点割合は上記を反映させます。
2. 審査票の内容・配点内訳・配点割合は変更ある可能性があります。

新型コロナウイルス感染症対策に基づく第 6 回 JLA シミュレーション審査会の開催について

記

標記の審査会を開催するにあたり、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、下記のとおりその対策について万全を期して対応いたします。

1 具体的な対策

- (1) 審査会の運営会議は、運営役員を会議室に集めずに全てオンラインで行う。
- (2) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の事前の体調確認を行う。(体調管理チェックシートを当日受付時に提出)
- (3) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の当日の体調確認を行う。(体調管理チェックシートを当日受付時に提出)
- (4) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の遠方者の前後宿泊については原則行わない。
- (5) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の移動交通手段について、公共交通及車両移動の際は、マスクを着用し、換気に務め、密にならないように分かれて移動する。
- (6) 開・閉会式では、全ての関係者は、マスク着用の上、2m 以上の間隔をとって海岸・屋外で行う。
- (7) 審査会のシミュレーション想定は、感染症(ウイルス感染)を想定した事案で行う。
- (8) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の新型コロナウイルス感染防止対策を行う。
 - 審査会実施エリアへの入場の際は、検温と体調管理チェックシートの提出、こまめな手洗い、アルコール等による消毒を行い、マスク着用を基本とする。
 - 審査会の全ての関係者は、2m 以上の間隔を確保する。
 - 審査会中は、大きな声で会話をしないようにする。
 - 審査会で使用する資器材も、こまめにアルコール等で消毒をする。
- (9) 運営役員、スタッフ等関係者の昼食は、海岸のテント内で 2m 以上の間隔を確保して、弁当と飲み物は単独のものを用意する。
- (10) 審査会会場で発熱者、体調が悪い者が出た際は、隔離用の救護テントを設置し、医師と相談の上、地域の感染対策ガイドラインに基づいて対応する。

3 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン等

「新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2021」を含む公式 HP に掲載される各『ライフセービングの活動ガイドライン』を確認して行動する。

以上

新型コロナウイルス感染症に係る体調管理チェックシート

氏 名：

所 属：

新型コロナウイルス感染防止対策のため、審査会に参加する初日の14日前から体調管理をチェックしてください。
参加前14日間チェックについては、参加の当日に受付に提出しサインをもらってください。

【活動前7日間の体調チェック】

	日付	体温	咳	痰	だるさ	その他
1		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
2		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
3		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
4		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
5		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
6		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
7		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
8		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
9		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
10		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
11		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
12		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
13		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
14		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
当日		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	

体調などで気になることがあれば記載してください

受付チェック

2021年度 想定

時間	項目
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始
想定開始後 0秒後スタート 本部前波打ち際から	監視本部目の前の波打ち際から、傷病者A（年齢実年齢、会社員、廣川健太（ひろかわけんた）若しくは良子（よしこ））が、ボディサーフィン中に前転してしまい、おでこ（前頭部）を海底（固く締まった砂）に強打し、頸部に鈍い音を感じた直後から両肩から先に刺すような痛みを感じ、両上肢が激しい痛みと共に動かなくなったと訴えつつ自力歩行可能な状態で、監視本部まで歩いてきた。時間経過とともに痛みが増してきたと訴える。 想定のおねらい：受傷部位頸椎損傷。観察や傷病者から聴取した情報を理解し適切な処置ができるか 想定の流れと説明：救急要請を実施しつつ、頸部に動揺を与えないよう適切な固定を実施できるか。また、時間経過とともに容態変化の可能性も予測し、継続的な呼びかけや容態観察バイタルの変化など記録し救急隊に引き継げるか。 更には、監視本部に自力歩行できた傷病者に対しての感染防止対策は十分行えるか。
想定開始後 45秒後スタート 浜から駆け寄ってくる	監視本部前の波打ち際から通報者が駆け寄ってくる。監視本部から150m程度離れた浜に常設のトイレ前の砂浜で人が倒れていると通報を受ける。 通報者は、近隣民宿（はまゆう荘）の従業員（年齢実年齢、バイト、江連洋二（えづれようじ）若しくは里穂（りほ））。常設のトイレ前の人だかりを確認すると、集団で飲酒を行い、そのうちの一人が過度な飲酒により、激しくおう吐を繰り返し意識混濁のため危険と判断し、監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者（年齢実年齢、アパレル従業員、鈴木学（まなぶ）若しくは咲（さき））。側臥位。周囲に飲酒したであろう酒類が落ちている。 周囲にいた傷病者の同僚も酩酊状態で大騒ぎしている。泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。概ね6人程度。 傷病者バイタル： LS接触後1分で連続3回 胃内容物逆流 飯類大量に準備、その後、意識レベル300）、上記状況以外は見たまま、外傷無し。（皮膚が赤い等はムラージュで表現負荷想定は傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する。） 訓練用AEDした場合は、解析するもショックの要なし。レベル300、呼吸あり、脈総頸触れる。急性アルコール中毒。観衆による活動障害。 関係者友人Bは、LSが常設のトイレ前に来た時に現れる。酒に酔っている。更には慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに権兵衛という民宿まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。 民宿に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（年齢実年齢、アパレル従業員、鈴木学（まなぶ）若しくは咲（さき））、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者は深酒のため寝たものだと思い込み、おう吐していることに気づかなかった。気付いた時には呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20分前の出来事。関係者（友人）は救急車に同乗可能。 想定のおねらい：急性アルコール中毒。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な処置ができるか。 想定の流れと説明：救急要請を実施しつつ、先の頸椎損傷の傷病者に対して活動優先順位を救急隊に相談報告し判断できるか。時間経過とともに容態変化の可能性も予測し、継続的な呼びかけや容態観察バイタルの変化など記録し救急隊に引き継げるか。 更には、傷病者に対しての感染防止対策は十分行えるか。セカンド・サードとの感染対策の連携は十分であったか。継続監視は十分できているか【重要】。 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。
想定開始 4分30秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）
想定開始 7分後	救急隊長指示で、搬送開始 それまでは救急隊は観察継続
想定開始 9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了

想定及びJLA側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。